

# 2022年 大納会

2022年12月30日、この1年の取引を締めくくる大納会を行いました。  
福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、約30名の市場関係者の皆様にご出席いただき、  
長理事長の挨拶と、引き続き理事長の音頭によって、くる年の平穏と景気の拡大、証券界  
の益々のご繁盛、ご列席者の皆様のご健勝を祈念して恒例の「博多手一本」を入れました。



## 理事長挨拶 (2022 年大納会)

2022 年、令和 4 年の大納会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、この 1 年、会員証券会社をはじめ、市場関係者の皆様、大変お疲れ様でございました。

おかげさまをもちまして、本日、本年の取引所業務を滞りなく終了し、このように無事、納会を執り行うことができますことに感謝し、衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、この 1 年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症につきましては、発生から 3 年目となりましたが、今年も感染者数は増加と減少を繰り返し、現在は第 8 波と、予断を許さない状況が続いています。

一方で、ワクチン接種も進み、国内の行動制限緩和・解除や海外旅行者の入国規制緩和などから、人の流れも増え、いろいろなイベントも行われ始めるなど、社会・経済活動は再開の動きが加速いたしました。

世界に目を向けますと、ロシアのウクライナ侵攻は、エネルギーや食糧供給に重大な影響を及ぼし、現在も収束が見込めません。

ウクライナ侵攻に加え、尾を引くコロナ禍の影響による供給力不足を主因とするインフレの抑制が大きな課題となっており、主要先進国は相次いで金融政策の引き締めを行っています。

内外の金利差を背景に、この 1 年間、為替レートは大きく変動し、115 円台でスタートしたドル円は、一時、約 32 年ぶりに 150 円を突破、このところ、多少は落ち着きを取り戻してはいるものの、130 円台で推移しています。

こうした中、物価上昇や為替レートの影響が、それぞれの企業の業績に明暗を分けた 1 年でありました。

株式市場の方は、主要国の金融引締めや世界経済全体の先行き懸念が影響し、一進一退を繰り返したものの、このところ 2 万 6000 円台で推移しており、残念ながら、年初の 29,000 円台には届きませんでした。

福岡証券取引所におきましても、2022 年中の新規上場は 1 社にとどまり、売買代金も 110 億円にとどまるなど、数字の上では厳しい 1 年となりました。

一方で、本年度からはじまりました 3 か年の中期経営方針では、福証の目指す姿として、新たに「国際金融拠点誘致の動きを踏まえつつ」、「一層その機能を強化していく」旨を掲げています。

7 月には福証改革推進室を設置し、海外投資家の利便性を向上させる新たな仕組みづくりについて、関係者間で協議を開始しています。

また、10 月には、福岡証券取引所活性化推進協議会に 5 年ぶりに分科会を設置していただき、新たな株式上場制度についての議論・検討を開始しています。

これまでと同様に最重要課題である新規上場の推進につきましても、5 月から、新たに IPO アンバサダー制度を開始するなど、支援の充実を図ってきています。

このように新たな取組みの検討にあたっては、理事・監事の皆様方や会員証券の皆様方に色々のご協力をいただきました。来年も、引き続きのご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

この 1 年間、本当にありがとうございました。

2022 年も、あと残り 1 日と 8 時間あまりとなりました。間もなく新しい年を迎えます。

皆さま、お体に気を付けて、「良い年」をお迎えください。